

れきしぶか だいえいじ
②9 歴史深い大栄寺



だいえいじ こざかい ち く かいさんとうじ なだうら
大栄寺は小境地区にあります。開山当時は、灘浦
しょうがっこう うら やまて じしゅう だいえん じ しょう
小学校の裏の山手にあり、時宗で大圓寺と称して
いました。

なんぼくちょうじだい こうこく ねん ご だいごてんのうだい
南北朝時代の興国3年(1342)、後醍醐天皇第
こうしむねながしんのう しんのう せきどうさん き
8皇子宗良親王(むねよし親王)が石動山に来たとき、
てら ていはつ ちか た かみ う
寺で剃髪し、誓いを立てたそうです。その髪を埋めて
まつ なだうらしょうがっこう うし かみづか
祭ってあるのが、灘浦小学校の後ろの髪塚です。

だいえいじ まも いちねん かい ぼん ころ
大栄寺はそれをお守りし、一年に1回お盆の頃に、お
まい
参りしてるそうです。

げんざい　ち　いてん
現在の地に移転したの
は、貞和3年（1347）
で、休安上人だそうで
す。本尊が夢に現れ、
じょうどしゅう　かいしゅう
浄土宗に改宗しました。



せんごくじだい　えち　ごうえすぎし　せきどうさん　せ
戦国時代には、越後上杉氏が石動山に攻めてきて、
ま　こ　かさい　あ　しょうしつ
巻き込まれて火災に遭い、消失しました。

じょうおう　ねん　せい　でんぎゅうしょうにん
承応3年（1654）に、11世の伝牛上人が
だいえいじ　かいしょう　げんざい　せい　ほうとう　つ
大栄寺と改称し、現在33世が法統を継いでいます。

なんど　かさい　あ　ほんどう　ねんまえ
何度か火災に遭っていますが、本堂は300年前、
さんもん　やく　ねんまえ　けんぞうぶつ
山門は約150年前の建造物です。

ほんどう　ちゅうおう　ごくらく　あらわ　きん　ちょうどひん
本堂の中央は、極楽を表す金ぴかな調度品がた
くさん飾られ、その奥には大きな阿弥陀如来が鎮座
しています。たてやま　はこ
立山から運ばれてきたそうです。その
あ　み　だ　によらい　まも　てんじょう　よすみ　してんのう
阿弥陀如来を守るように、天井の四隅に四天王が
はいち
配置されています。

また、^{らんま}欄間には、
^{じょうどしゅう}浄土宗 ^{もん}の ^紋と
^{とくがわけ}徳川家の^み三^{ばあおい}つ葉葵の
^{かもん}家紋があります。^{とくがわ}徳川
^{いえやす}家康 ^{ねっしん}が ^{熱心}に
^{じょうどしゅう}浄土宗を^{しんこう}信仰し、^み三
^{ばあおい}つ葉葵 ^{しょう}の使用を^{みと}認
 めたそうです。



また、^{しょうこうだい}焼香台には^{きくかもんしょう}菊花紋章が
 あります。^{むねながしんのう}宗良親王（むねよし
^{しんのう}親王）^{ゆらい}由来のお寺なので、^{てんのうけ}天皇家
^{ゆる}からお許しがあるそうです。



^{ほんどう}本堂の^{おく}奥には、^{いま}今から1200
^{ねんまえ}年前の^{じぞうぼさつぞう}地蔵菩薩像があります。そ
^{ひだりよこ}の左横には、^{こし}腰から^{した}下が^{きんいろ}金色の
^{はんこんじき}半金色の^{ぜんどうだいし}善導大師が、^{ちゅうおう}中央には



きゅうあんしょうにん よこ ほうねん
休安上人が、その横には法然

しょうにん いちばんひだり かまくらしよき
上人が、一番左には、鎌倉初期

さくひん たか ひょう か
の作品として高く評価されてい

し していぶんかざい もくぞうじゅういちめん
る市指定文化財の「木造十一面

かんのんぼさつりゅうぞう まつ
観音菩薩立像」が祭られていま

す。

たい らかん むかしつか
16体の羅漢さんや昔使って

かご てんじ
いた籠なども展示してあります。

けいだい しきおりおり きぎ
境内には、四季折々の木々や

はなばな み しぜんゆた
花々が見ることができる自然豊

てら ほんどう なか
かなお寺です。本堂の中は

はな さんもん そうだい
華やかで、山門からは壮大

とやまわん み
な富山湾が見られます。ぜひ

い
行ってみてください。

